

上瀬谷地区 大規模雨水処理施設整備事業計画（横浜市）

（様式1）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>本地区は横浜市西部の瀬谷区と旭区にまたがり、相模鉄道瀬谷駅の北方約2kmに位置している米軍施設の跡地である。本地区は約248.5haの広大な地区であり、首都圏でも貴重な大規模空間であることや東名高速道路や保土ヶ谷バイパスに近接し交通利便性に優れていることなどから、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」（令和2年3月）に基づき、都市農業の振興と新たな都市的土地利用の実現に向けたまちづくりが進められている。</p> <p>本地区は新規にまちづくりが行われる地区であることから、新規市街地における浸水のリスクを可能な限り避けるために、浸水対策を実施する必要性が高い地区である。</p> <p>本計画における雨水処理施設の整備の計画期間は、令和7年～令和10年度（4箇年）で、事業費は約124億円である。</p> <p>以上より、上瀬谷地区の浸水対策は、計画的・集中的に対策を推進する必要があるため、大規模雨水処理施設整備事業を適用する。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画における対象降雨：100mm/hr ・ 目標とする理由：今後設定予定の照査降雨（L1'） ・ ハード整備による整備水準の目標：47mm/hr（5年確率降雨） <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：広域防災拠点（予定地）の浸水を20cm未満に抑える ii) 都市機能の確保の観点：交通の支障となる道路冠水の防止。 新交通システム・（仮称）上瀬谷駅周辺の浸水防止 iii) 個人財産の保護の観点：区域内に整備予定の基幹物流施設、テーマパークの床上浸水を防止する（浸水深45cm未満）。 iv) その他：特になし <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 5年確率降雨（47mm/hr）における浸水被害を防止することを目的とする。 ii) ソフト対策及び自助 ハード整備による整備水準を上回る降雨については、下水道管理者による情報提供などにより、浸水被害を最小にとどめる。 <p>また、区域内の緑地確保、透水性舗装、雨水貯留砕石などグリーンインフラの活用により、雨水浸透機能を確保し、流出量の抑制に努める。</p>

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・有 (令和3年6月策定済み) ・策定予定 (令和〇年〇月末策定予定) 			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水管きよの整備 L=約 6.9km
			下水道管理者以外	特になし
		ソフト対策	下水道管理者	・管路清掃・内水ハザードマップの提供 ・インターネット等による雨量情報の提供
			下水道管理者以外	・インターネット等による雨量、河川水位の情報提供 ・電子メールによる河川水位上昇時や降雨の警報・注意報発表時の情報配信
	自助	ハード対策		・開発行為における事業地内の雨水流出抑制
		ソフト対策		・道路雨水ますの清掃 ・ハザードマップによる自助・共助促進

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

- * 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること（別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照）。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- * 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を下水道総合地震対策計画に位置づけること。
- * 下水道施設の改築（浸水に対する安全度の向上を伴わないもの）を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。（下水道総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く）

年度計画（百万円）

名称	R7	R8	R9	R10	計
雨水管渠	4,695	2,500	3,250	2,000	12,445
計	4,695	2,500	3,250	2,000	12,445

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	被害額：8,136 百万円が削減される。 B／C：1.440 経済的内部収益率：6.413% ソフト対策、自助の整備効果等 ：内水ハザードマップの周知などの情報提供、グリーンインフラの活用による雨水流出抑制機能の確保により、浸水被害を最小にとどめる。
放流先河川との調整状況	上瀬谷地区の雨水排水の放流先は二級河川境川である。区画整理に伴う流出量増に対応する調整池を整備することを計画しており、河川管理者の承諾を得ている。
その他	上瀬谷地区は相沢川や和泉川の上流域に位置していることから、健全な水循環の推進の観点から、公園整備事業において透水性舗装や緑地確保などによる雨水浸透機能の確保が計画されている。

